

モニタリングシステムの 概念設計について

資料目次

1. 新たな「国土のモニタリング」の概念
2. 総合的な国土形成の推進
3. 全国計画及び広域地方計画を軸とした国土のモニタリング体系

現行の「国土のモニタリング」研究会報告(平成15年6月)

国土のモニタリングの概念

国土計画のマネジメントサイクルの一環として、国土計画の策定や評価といったプロセスを円滑かつ効果的に遂行するために、必要な情報を恒常的に収集・分析する行為。

国土モニタリングの役割

- ✓ 国土のあり方や情勢変化を把握し、これに基づき、現行計画で示した姿が実際にどうなっているか、あるいは、新たな計画課題は何か等の観点から分析を行い、計画の評価および推進や、新たな計画内容に反映させる。
- ✓ 国土計画の内容に関わるものを含め、国土の有り様や情勢変化等についての情報を、国民や関係機関と共有化することにより、国土計画の策定・評価・推進について理解増進を図るとともに、様々な主体の計画参加等を支援する。

新たな国土形成計画の方針

視点1: 国と地方の協働によるビジョンづくり

- ・全国計画と広域地方計画の2重構造
- ・計画への多様な主体の参画

広域レベルのモニタリングとの機能分担
多様な主体が計画へ参画できる仕組みづくり

視点2: 開発中心からの転換

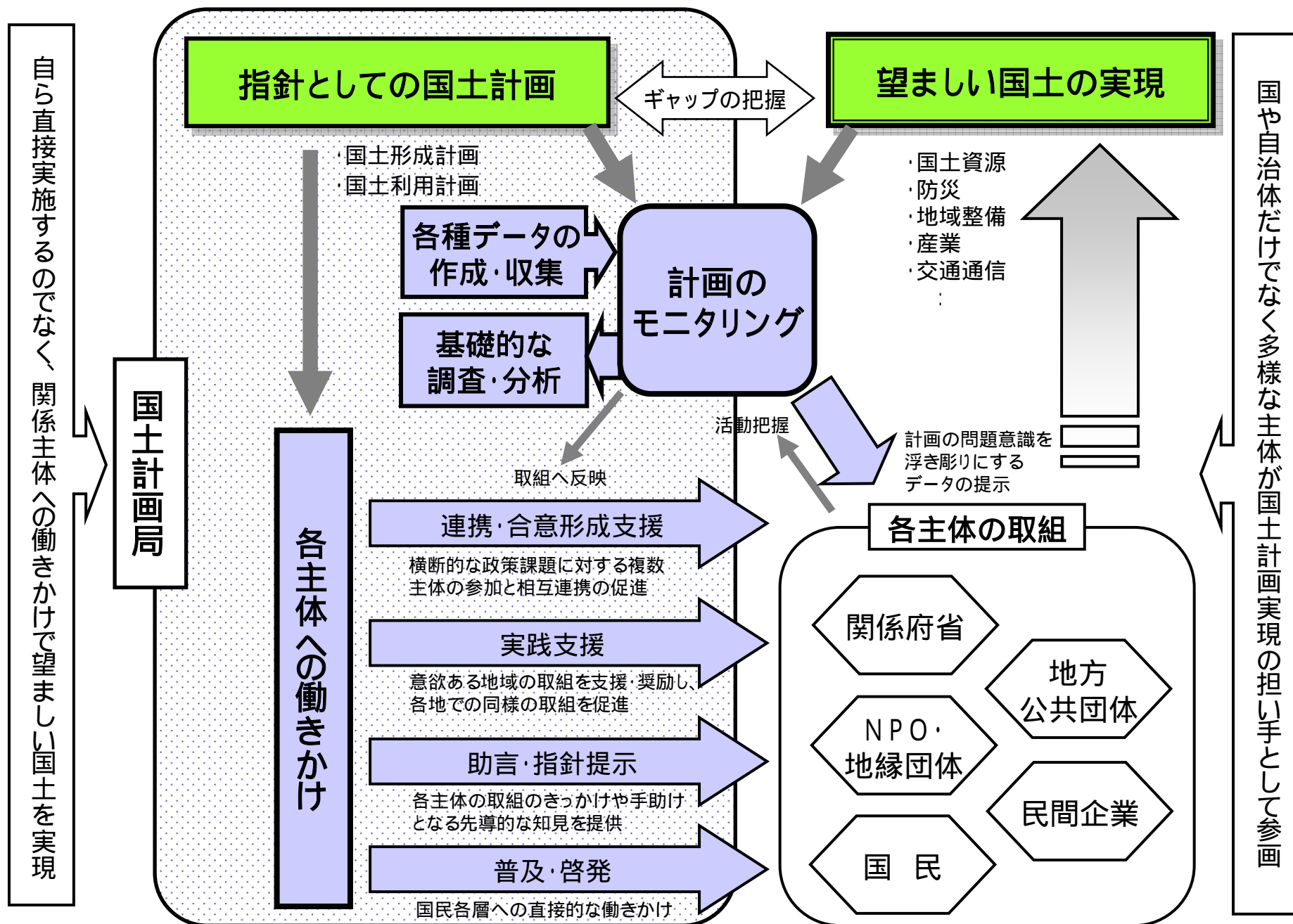
- ・成熟社会型の計画(新たな5つの戦略目標)

新たな国土計画に即したモニタリング
項目の設定

更なる機能強化

効率的・効果的な進行管理を行う「国土計画のマネジメントサイクル」の確立による国土形成計画の指針性向上と、多様な主体が自ら望ましい国土のあり方を模索し、判断し、行動したくなる情報が得られる基盤を整備することにより、自然発生的に望ましい国土の実現を図る。

総合的な国土形成の推進



全国計画及び広域地方計画を軸とした国土のモニタリング体系

資料 3

